

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

The association between maternal social support levels during pregnancy and child development at three years of age: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠中の母親のソーシャルサポートレベルと子どもの3歳時の発達との関連

ユニットセンター(UC)等名:大阪ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名:Environmental Health and Preventive Medicine

年: 2024 DOI: 10.1265/ehpm.23-00211

筆頭著者名:今西 洋介

所属 UC 名:大阪ユニットセンター

目的:

ソーシャルサポートは母親と子どもの身体的・精神的健康を維持するために不可欠である。しかし、妊娠中に母親が受けたソーシャルサポートが子どもの発達にどのような影響を与えるかのエビデンスは限られている。そのため、妊娠中に受けた母親のソーシャルサポートレベルが子どもの3歳時の発達遅滞のリスクに関連するかを検討した。

方法:

本研究ではエコチル調査に登録された約10万組の母子のうち、68,442組を対象に3歳まで追跡を行った。母親のソーシャルサポートは4つの項目を評価し、足し上げた総点を5分位にして分類した。発達遅滞のリスクはASQ-3を用いてコミュニケーション、粗大運動、微細運動、問題解決、個人-社会の5領域で評価した。妊娠中に母親が受けたソーシャルサポートと子どもの3歳時の発達遅滞リスクとの関連について多変量ロジスティック回帰分析を行った。また、ソーシャルサポートレベルや共変量とASQ-3スコアとの関連を重回帰分析により検討した。

結果:

妊娠中に母親が受けたソーシャルサポートは、子どもの3歳時の発達遅滞のリスクと負の関連を示した。母親のソーシャルサポートレベル(5分位)が最も低い群に比べた場合の最も高い群のオッズ比(95%信頼区間)は、コミュニケーション0.57(0.50-0.65)、粗大運動0.49(0.43-0.55)、微細運動0.58(0.53-0.64)、問題解決0.56(0.51-0.62)、個人-社会0.52(0.45-0.60)であった。重回帰分析では、妊娠中のソーシャルサポート及び在胎週数、世帯収入はASQ-3全領域のスコアと正の関連、母親の年齢と産後うつは一貫して負の関連を示した。

考察(研究の限界を含める):

妊娠中に母親が受けたソーシャルサポートは3歳時の子どもの発達遅滞リスクと負の関連を示した。これらの機序としては複数考えられた。ソーシャルサポートが低い妊婦では、うつなどの心理的問題との関連が報告されている。ソーシャルサポートは母親に心理的幸福を与え、子どもの家庭での言語習得環境を向上させている可能性がある。本研究の限界点として、(1)子どもの発達評価が養育者の自己申告に基づいていること、(2)保育園等への通園状況などを考慮していないことなどが挙げられる。

結論:

妊娠中に受けた母親のソーシャルサポートは子どもの3歳時の発達遅滞リスクと負の関連を示した。